

---

 書 評 ・ 紹 介
 

---

Kevin Guyan

*Queer Data: Using Gender, Sex and Sexuality Data for Action*

Bloomsbury Academic: London, New York, and Dublin, 2022, 227 pp.

スコットランドの2021年センサスの設問検討にも関わった著者は、5年にわたり、大学の人事関係者やダイバーシティ&インクルージョン委員に対しデータ活用方法の助言をしてきた。そこでみたデータをめぐる誤解が本書執筆のきっかけとなる。タイトルの queer data は、LGBTQ についてのデータに加え、どのように知なのか、なぜ知りたいのか、データ構築過程で誰に決定権があるのか、LGBTQ の誰が抜け落ちるのかといったことに向き合う必要性も含意し、全体を貫く視点となっている。

第1部はデータ収集を扱う。1章 Gaps and absences: A history of queer data は、性に関する規範にそぐわない人々についてのデータの歴史、方法、収集目的を考察する。2章 Moving targets: Queer collection methods では LGBTQ のデータ収集の過程で行ったインタビューやフォーカスグループの知見を述べ、調査実践が調査対象（および調査者）に変化をもたらすことにも触れる。3章 Queer the censuses: Sex, sexual orientation and trans questions in Scotland's census ではセンサスの性別等の問いの設計過程を説明する。4章 Beyond borders: Queer data around the world では英国以外の国・地域でのデータ収集を紹介し考察する。

第2部はデータ処理を取り上げる。5章 Straightwashing: The cleaning and analysis of queer data は分析の8割を占めるといわれるデータクリーニングやカテゴリ統合で、LGBTQ の生活を影響するかもしれない決定がなされることを論じる。Straightwashing は性別の問いで男か女を選択せずトランスジェンダーと書きこんだ回答を削除する、1990年米国センサスで続柄を「夫・妻」とした男性2人の一方を女性に変更するなど、性的マイノリティの存在を消すプロセスを指す（日本の2015年国勢調査で世帯主と同性の配偶者を「他の親族」に変更したのもその例）。6章 Queer validation: Data practices and the recognition of LGBTQ identity claims では自己認識、他者による認識、生体データ、行動データ等がいかにして社会の有効な表現として認識されるかを示し、データの有効性の判断は中立的でないことを述べる。

第3部はデータの活用を検討する。7章 Loud voices: Communicating queer data in online spaces では、データについて誰に決定権があり誰の声が重視されるのかに焦点を当てる。クィアデータの技量を高めることで、データ実践がLGBTQ に悪影響を与えるような間違いは防止できるといふ。この技量には用語や概念の知識、LGBTQ の歴史的社会的背景・不平等な現状・LGBTQ 内部および対非当事者との権力関係・他属性との交差性の認識、カテゴリーの疑問視、知を得る方法の多様性の認識、反対意見を表明できることなどを含む。当事者性やウェブ上の炎上についても論じる。8章 Fight back!: Using queer data for action では、データがどのようにLGBTQ の生活を記述し、否定的考え方に意義を唱え、生活に実質的変化をもたらすかを示す。データは善につながるという前提を疑問視しつつ、必要なところに届けることが不可欠だと述べる。結論では、全く問題のないデータではない場合でも、データには、LGBTQ の存在を認識させて不当な扱いがあることを示すことを通じてLGBTQ の生活を改善する力をもつと同時に、LGBTQ 施策は不要だと結論づけられることに加担する可能性もあることが強調される。

このテーマで研究を進める者としては多数の知見が得られ、引き続きこの研究に力を注ぐことの意義が確認できた。本誌76(4)の Hiramori & Kamano (2020)が引用されていたのはうれしい驚きであった。本書は、データは「現実」ではなく何を含め何を含めないかの判断を経た社会の記述である、という視点から書かれており、あらゆるテーマにおけるデータ構築に関わる課題を提起している。専門領域に関わらず、データ収集、処理、分析、公表に関わる方々には、ぜひ読んでいただきたい。

(釜野さおり)